

仏様のおはなし新シリーズ第101集「阿弥陀さまの腕の中」

わたくし事ですが先日、第一子が誕生しました。コロナウイルスの影響で出産に立ち会うことができず、産後七日目にしてようやく我が子を手に抱くことができました。

妻から恐る恐る我が子を手に抱き、温かさとこちらを見つめる顔を見た瞬間に「本当に産まれてきたんだ。生きているんだ。会いたかったよ。ありがとう。」と、大変な時ではあつたけど無事産まれてきたよろこび。傍にてあげられなかつた妻とご苦労かけた方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

後日、子どもに会いに妻の実家へ行つた際、妻から少し用があるので息子をあやしてほしいという場面がありました。不慣れなわたしは緊張と焦りでうまくあやすことが出来ず、不安が伝わつてしまつたのか案の定泣いてしまいました。妻が飛んできて交代するとすぐに泣き止みました。そのあとはお風呂に入れて、寝かせて、食事をさせての繰り返し、母親のご苦労を身に染みて感じました。

その日の夜はなかなか寝てくれず、朝方まで夜泣きが続きました。夫婦そろつて寝不足の中、見かねた妻の母が我が子を寝かせつけるのを横目にわたしもそのまま眠つていくのでした。

起きると妻に抱かれ眠る子どもの姿がありました。ぼんやり見ているとこの言葉が頭に浮かびました。

「あれごらん親に抱かれて寝る赤子、落ちる落ちぬの心配はなし」

親の腕の中の赤ちゃんは寝たり泣いたり暴れたりやりたい放題です。そんなことができるるのは親が絶対に離さないという安心の世界がそうさせています。

私たちには両親以外にも親がいて下さいました。その親こそ阿弥陀様です。阿弥陀様は、いつでも、どこでも、どんなときにも私たちを見守つてくださいます。誰であろうと分け隔てなく、私たちはみんな阿弥陀様の子どもなのです。私たちが悩み苦しんでいるとき、代わってくれるわけでもありません。しかし「あなたは一人ではない、いつでもここで見守つていいよ」と、私たちのそばにいつもおられます。

私たちは、常に阿弥陀様に見守られ、抱かれて生きています。だからこそ、私たちは安心して、日々を過ごしていくのではないでしょうか。

